

# 危機管理体制の構築を

政風会  
宮宅 良



角田理事 **A** 対応力の向上に努める



▲最前線での活躍と適切な判断を

**問** 町は消防事務の管理・執行を、加古川市に委託している。平成12年には播磨分署が整備されたが、消防機関を町の直接の管理下に置いていない。災害時の指揮命令や情報分析、危機管理グループと消防の一体性など、危機管理体制の構築を。  
**答** 町災害対策本部では、加古川市消防本部を参与として位置づけ、連携して災害に当たることになっている。災害時における町職員の対応力などの向上に努めていく。

**問** 町は消防事務の管理・執行を、加古川市に委託している。平成12年には播磨分署が整備されたが、消防機関を町の直接の管理下に置いていない。災害時の指揮命令や情報分析、危機管理グループと消防の一体性など、危機管理体制の構築を。  
**答** 町災害対策本部では、加古川市消防本部を参与として位置づけ、連携して災害に当たることになっている。災害時における町職員の対応力などの向上に努めていく。

# 溝蓋設置で安全な通学路を

日本共産党  
田中 久子



平郡理事 **A** 設置基準で対応している



▲おっと危ない！通学路

**問** 二子北地区から蓮池小学校に向かう町道の右側通学路に溝蓋の設置がない部分があり危険である。溝蓋の設置で安全な通学路にする考えは。  
**答** 設置基準に基づき対応している。左側の通行に変更することも検討。  
**問** 瓜生交差点から二子南交差点の間、歩道の幅員を広くするように県に要望できないか。  
**答** 県・町事業連絡会で加古川土木に要望を行い、街路樹の撤去など歩道の改修を実施している。

**問** 古田東踏切から西幼稚園の間に歩道の設置の考えは。  
**答** 地域、周辺権利者の理解が不可欠で、検討と調査が必要と考える。  
**水道中止料金の無料化を**  
**平郡 今後検討する**  
**問** 平成27年3月の請願「水道中止料金の廃止は、議会で可決されたものであり、早急の実施すべきである。町として検討したのか。  
**答** 空き家の中止料金を廃止した場合、加入者の権利や移動確認などの懸案事項もあり、今後検討する。  
**問** 中止料金の調定件数と年間の総額は。  
**答** 現在4440件で、金額は355万5400円である。  
**問** 中止料金の最高額は。  
**答** 個々の金額は調査していない。  
**その他の質問**  
▼地震に備え家具の固定対策を

# 任意予防接種にも助成を

政風会  
岡田 千賀子



町長 **A** 新たな財政的負担が生じる



▲子育て支援の拡充を

**問** 免疫・抵抗力が備わっていない乳幼児を感染症から守るために予防接種は有効である。インフルエンザ・B型肝炎・ロタウイルスなどの高額なワクチン費用は子育て家庭にとって大きな負担である。子育て支援の一環として子どもの任意予防接種に助成を。  
**答** 現在、おたふくかぜに助成している。助成の拡充を図ることは、新たな財政負担が生じる。また、国において、B型肝炎やおたふくかぜなどの

定期接種化について検討が進められており、引き続き、国の動向や他市町の状況を注視していく。  
**切れ目ない子育て支援を**  
**町長 関係部署と取り組む**  
**問** より一層切れ目のない子育て支援体制を。  
**答** 子育てコンシェルジュと保健師を新たに採用窓口を設置し、子どもや保護者が、ニーズに合ったサービスを円滑に利用できるよう取り組む。  
**問** 「子ども子育て新支援制度」の拠点となる司令塔の役割を持ち、住民から解りやすい相談体制をとるために子ども窓口の一元化を。  
**答** 子どもの担当グループは、複数の窓口となっており、ケースに応じて関係部署との連携を図っている。子ども窓口については、以前否決されているので議会で協議し、意見調整を。  
**その他の質問**  
▼通学路の安全対策を

# 苦手な食材への配慮は

新政会  
松下 嘉城



町長 **A** 季節感や新作の研究



▲クラスで協力して給食準備 (西小)

**問** 学校で提供される給食は、栄養士や管理栄養士が管理を行い、献立を作成し食事を提供している。苦手な食材が献立された場合、生徒への指導・配慮はあるのか。  
**答** 給食に飽きないよう、季節感や新作メニューの研究を行っている。指導は無理強いをせず、食べてみようと思っ雰囲気づくりに気を配り食育として推進している。  
**食物アレルギーの対応は**  
**町長 学校内外で研修を実施**

**問** 食物アレルギー疾患は子どもに多くみられるのが特徴である。対応が必要な三十数名の生徒に対し、緊急時(アナフィラキシーショック)の対応は可能か。  
**答** 「播磨町立学校におけるアレルギー疾患対応マニュアル」を策定し学校内外で研修を実施。エピペン所持児童生徒については、消防署へ文書で依頼し連携している。  
**高齢者向け給食利用者は**  
**福田 給食サービスは154人が利用**  
**問** 一人住まいの高齢者・障がい者向けに夕食を配食する福祉サービスがあるが、利用者は何名か、その時に安否とか健康状態の把握は可能か。  
**答** 154人が利用している。配食の時点では、健康状態までの把握は難しいが、見守りを主にした社会福祉協議会の事業であり、身体の不調とか異変時には関係部署に連絡する。

※食物アレルギーの症状を抑える薬